

2月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 平成30年2月15日(木)午前11時

2. 開催の場所 栃木放送本社会議室

3. 委員の出席 委員総数9名
出席委員6名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	太田照男
	委員	荒川政利
	委員	平野博章
	委員	河又弘子
	委員	白幡冬彦

局側出席者名	代表取締役社長	大塚幹夫
	報道制作局長	川島育郎
	報道制作局編成部長	大谷佳久

4. 議 題

- (1) ～CRTワイドFM開局記念 POPFREAKスペシャル～
「再現！究極のアナログ音（サウンド）」について
(平成29年12月21日(木)放送 再放送2回)
報道制作局 川島育郎

- (2) その他

5. 議事内容

(1) ～CRTワイドFM開局記念 POPFREAKスペシャル～ 「再現！究極のアナログ音（サウンド）」について

試聴番組：12月21日～30日に放送した番組を予め試聴

議題説明：報道制作局の川島が番組の企画意図について説明した。FM開局記念として音楽番組を企画した。レコードを良い音で聞くために開発されたレーザーターンテーブルが発売されていることを知り、アナログレコードの人气が再燃していることから、レギュラー番組の「POPFREAK」パーソナリティーとレーザーターンテーブルの開発者との対談や音楽を紹介する特別番組を制作した、と説明した。

各委員からは、

- 音がクリアで深みがあるのはわかるが、プロ同士の会話・表現については、精通していない人が聞くとわかりづらい。曲はゆったりと聞くことができ、聞き比べも素人でも参考になった。これまで何かをしながらラジオを聞いていたが、FM開局でラジオに耳をそばだてて聞く時代が変わっていくと思った。
- とても音がクリアで臨場感があってCDとの違いが分かった。マニアックだと思うが、好きな人にはたまらないだろう。FM開局記念として非常に面白く曲もよかったが語りが聞き取りづらかった。FM放送で視聴者層も広がっていくので、幅広い世代に向けた番組作りも良いのではないか。
- 素晴らしい番組で泣いてしまった。音で感動した。こんなに音が違うのか、もっと聞きたいと思った。FMだからできる番組で、このような番組・姿勢を続けてほしい。正座して聞くような番組だった。
- 聞いていて懐かしい感じがして音が良いと思った。改めてレコードを聴いてみたいと思った。聞き比べて音が違うところがわかって新鮮な感じがした。
- 初めて聞いて音質がとても良い。音の深みがあって良かった。時代背景などが分かりやすかった。マニアのための番組で終わってしまうので、こういう番組をどのように知らせるかが課題だと思う。
- マニア向けで音楽好きしかわからない専門用語が多かったが飽きずに聞くことができた。聞き比べて分かりやすかった。夜の放送時間には良いと思った。他局との差別化にもいい。耳をそばだてて真剣に聞く番組も良いと思う。
- このような特別番組の告知をキャッチできない。こんないい番組があったのかと思うことがある。もう一回聞きたいと思ったときも聞くことができない。ホームページで聞くことができるようになるといい。

○新聞などラジオ以外のメディアで告知をしたほうがいい。広報の力は大切なことです。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組作り広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

特になし。

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(平成30年2月25日(日) 午前8時5分放送)
- ② 社のホームページに掲載(平成30年2月28日～)
- ③ 社事務局に議事録備え置き(平成30年2月27日～)

以上